北海道訓子府高等学校

令和８年度第２回学校運営協議会議事録

日　時　令和８年（2026年）10月13日（火）18時00分～19時30分

場　所　視聴覚教室

出席者　学校運営協議会委員　古沢　栄一、齊藤　麗紗、石村　光美、須藤　美穂
中島由起子、谷口　武彦、菅野あけみ、中塚　　保

学校職員　堀井　圭司、堀尾秋功砂、馬場　拓哉、竹内　篤子
津野　雅巳

教育局職員　坂本　浩哉、髙橋枝里子、下町　佳孝

欠席者　学校運営協議会委員　遠藤　美幸

会次第

１　会長挨拶

２　校長挨拶

３　令和８年度前期学校評価（教職員自己評価）について

配付資料に基づき、校長が説明。

４　講話

オホーツク教育局教育支援課社会教育指導班髙橋主査より学校運営協議会委員の役割について他校の実践例を交えた講話。

５　各部の前期活動報告について

（１）地域探究部

配付資料に基づき、馬場教諭が説明。

（２）キャリア教育部

配付資料に基づき、竹内教諭が説明。

６　グループ討議

地域探究グループ、キャリア教育グループに分かれ各部の活動について討議後内容を発表

地域探究グループ（谷口委員、須藤委員、菅野委員、馬場教諭）

・探究学習について、１年間でテーマを完結させるのではなく、後輩に引き継ぐなど２～３年継続研究してもよいのではないか。

・訓子府町活性化のテーマもあるので、学生議会のような活動に発展させ、町に提案書を出してみてもよいのではないか。

・町の中学校と探究活動について連携し、高校で内容を発展させてみるのもよいのではないか。

キャリア教育グループ（古沢委員、齊藤委員、石村委員、中島委員、中塚委員、竹内教諭）

・インターンシップを終えお世話になった事業所や就業体験した生徒から経験してよかったという肯定的な意見が多い。その声を広く伝えていくことが生徒のステップアップにつながるのではないか。

・学校の活動についての情報発信を工夫してはどうか。町のホームページに掲載する、SNS を活用するなど機器を利用することと、地域の人のつながりの両方で教育活動を知ってもらえるとよいのではないか。

7　助言

オホーツク教育局教育支援課社会教育指導班髙橋主査、オホーツク教育局学校教育指導班坂本調整幹（兼）教育専門員より今後の学校運営協議会についての助言。